

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年<大阪府 (公立) 実施校数・児童数 979校 71,212人>  
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年<大阪府 (公立) 実施校数・生徒数 469校 66,964人>

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査
  - ・小学校等【国語、算数、理科】
  - ・中学校等【国語、数学、理科】
  - ※英語（中学校等）は3年に一度程度の実施のため実施せず
- ② 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- (4) 実施日 令和4年4月19日（火）

【今年度調査の特徴】

※今年度の教科に関する調査は、国語、算数、数学に加えて理科を4年ぶりの実施  
 ※今年度は一部、児童生徒質問紙調査を学習用端末未使ったオンラインによる回答を実施  
 ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるよう、新型コロナウイルス感染症や、非常変災等に関する後日実施を設定。後日実施の期間については、4月20日（水）以降5月20日（金）までの約1か月間で実施

## 学力調査結果

### 平均正答率 (%)

#### 小学校

	大阪府	全国	差	対全国比
国語	64.0	65.6	-1.6	0.976
算数	62.6	63.2	-0.6	0.991
理科	60.4	63.3	-2.9	0.954

#### 中学校

	大阪府	全国	差	対全国比
国語	67.2	69.0	-1.8	0.974
数学	50.7	51.4	-0.7	0.986
理科	46.6	49.3	-2.7	0.945

### 無解答率 (%)

#### 小学校

	大阪府	全国	差
国語	5.9	5.7	0.2
算数	3.6	3.5	0.1
理科	4.2	3.6	0.6

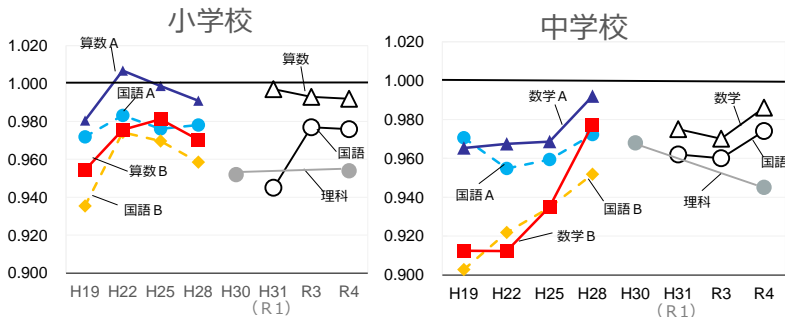
#### 中学校

	大阪府	全国	差
国語	5.3	4.3	1.0
数学	12.1	10.8	1.3
理科	4.5	3.4	1.1

### 【参考】対全国比の経年比較

対全国比 = 府平均正答率 ÷ 全国平均正答率

全国の平均正答率を1.000としたときの、大阪府（政令市を含む）の各教科の平均正答率の推移（平成30年までは各教科A・Bの2区分）



## 各教科の状況

### ○ 小学校国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項等」について、話し合う場面での言葉の使い方については、概ねできている。  
 一方、「書くこと」では、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題が見られる。  
 また、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書くことにも課題が見られる。

### ○ 小学校算数

「数と計算」領域は、概ねできている。整数の乗法の計算をすることについては、相当数の児童ができています。  
 一方、「変化と関係」領域に課題が見られ、割合について、日常の場面に対応させながら理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることに課題がある。

### ○ 小学校理科

全般に、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、それらを日常生活に関連付けて理解したり、問題を見いだしたりすることに課題がある。  
 昆虫の体のつくりを理解することなど、「生命」を柱とする領域は概ねできているが、「エネルギー」や「粒子」を柱とする領域に課題がある。

### ○ 中学校国語

「読むこと」について、課題はあるものの、場面と場面、場面の描写などを結び付けて読むことについては、概ねできている。  
 「書くこと」では、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして書いたり、表現を工夫したりすることに課題が見られる。また、必要な情報を資料から抜き出すことや、複数の条件にしたがって書くことにも課題が見られる。

### ○ 中学校数学

「数と式」領域において、連立二元一次方程式を解くことについては、概ねできている。  
 一方、「図形」領域では、特に筋道を立てて考え、事柄が成り立つまたは、成り立つとは限らない理由を考え、説明することに課題がある。  
 また、「関数」領域では、特に日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

### ○ 中学校理科

全般に、実験の計画を検証し、改善策を考えたり、実験・観察等から見いだした規則性や関係性を日常生活や社会と関連付けたりすることに課題がある。  
 動物の体のつくりと働きについて説明することなど、「生命」を柱とする領域は、他の領域と比べてできているが、「エネルギー」を柱とする領域に課題がある。

領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
話すこと・聞くこと	64.4	66.2
書くこと	46.0	48.5
読むこと	65.9	66.6
言葉の特徴や使い方に関する事項等	70.9	73.5

\*学習指導要領の内容により記載

領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
数と計算	69.1	69.8
図形	62.9	64.0
変化と関係	51.2	51.3
データの活用	68.7	68.7

領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
エネルギー	49.0	51.6
粒子	56.8	60.4
生命	72.3	75.0
地球	61.0	64.6

領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
話すこと・聞くこと	59.9	63.9
書くこと	43.6	46.5
読むこと	66.2	70.2
言葉の特徴や使い方に関する事項等	61.1	62.9

\*学習指導要領の内容により記載

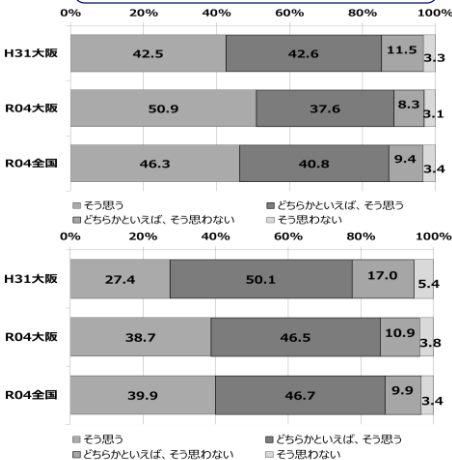
領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
数と式	56.7	57.4
図形	43.2	43.6
関数	43.8	43.6
データの活用	55.4	57.1

領域等	平均正答率 (%)	
	大阪	全国
エネルギー	38.9	41.9
粒子	48.7	50.9
生命	53.2	57.9
地球	42.8	44.3

## 児童生徒質問紙

### ○先生はよいところを認めてくれる

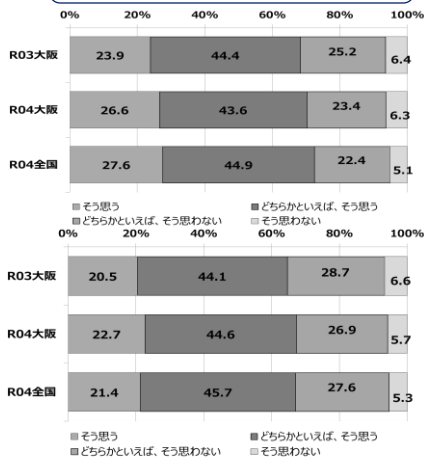
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか ※R03年度項目なし



先生は、自分のよいところを認めてくれていると肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

### ○難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している

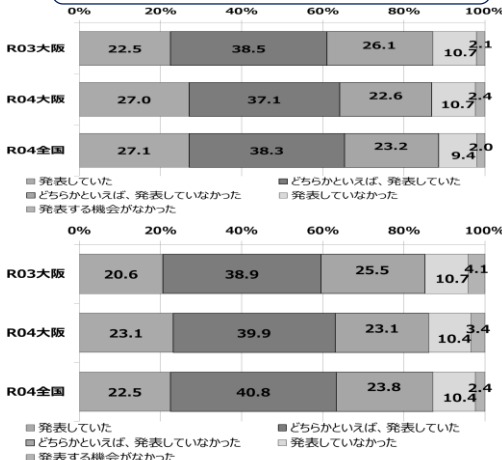
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

### ○自分の考えを伝えるため工夫して発表している

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

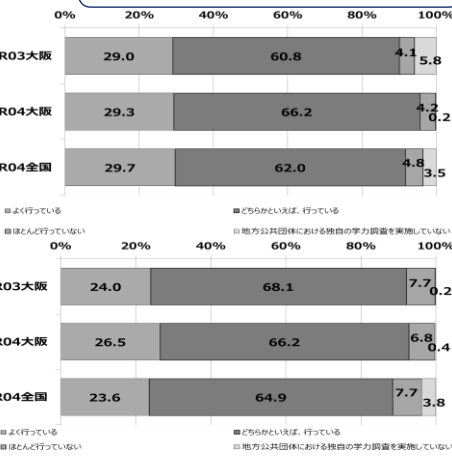


自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと肯定的に回答した割合が増加しているが、さらなる取組みが必要。

## 学校質問紙

### ○分析結果をいかした指導改善等の実施

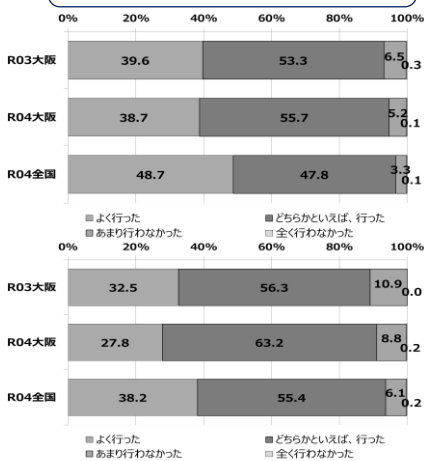
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている小中学校の割合が増加している。

### ○家庭学習の方法の具体的な指導

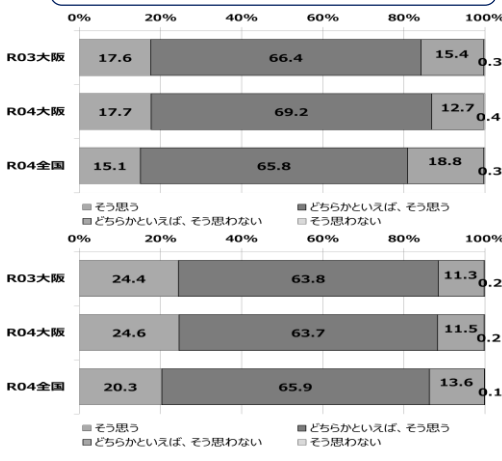
家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか



学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたという強い肯定で回答をしている学校の割合が減少しており、家庭学習について丁寧な指導が必要。

### ○自分の考えを深めたり広げたりする活動

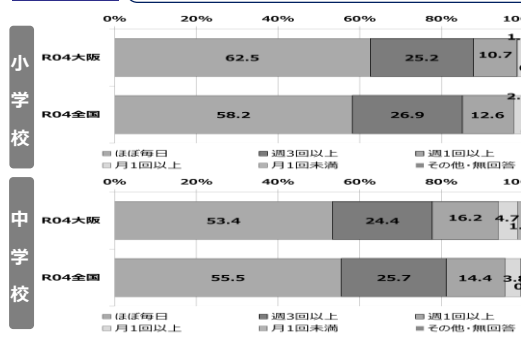
児童生徒が学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか



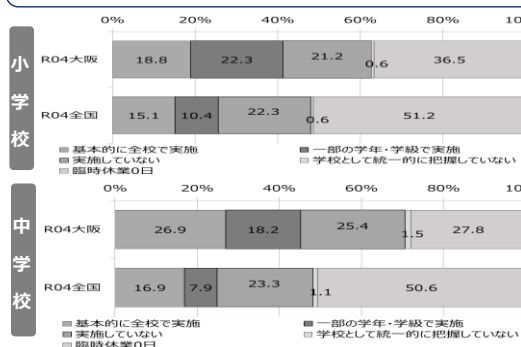
話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した学校の割合が小中学校で増加しているが、「そう思う」と自信をもって回答できるよう、さらなる授業改善が必要。

## 学校質問紙

児童生徒に対し、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ※R04年度からの項目

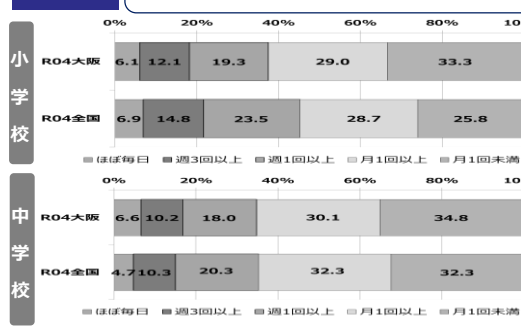


令和3年度での新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業の期間（短縮授業・分散登校の期間を含む）、家庭での学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行っていましたか ※R04年度からの項目



## 児童生徒質問紙

学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ※R04年度からの項目



臨時休業期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行った学校の割合は高い。学びの保障とともに、ICT機器も活用し、より授業改善が進むよう、さらなる取組みが必要。